

高等学校芸術科「書道Ⅰ」指導案

日 時 平成30年12月13日(木)5限
場 所 県立大島高等学校書道室
対象学級 県立大島高等学校1年7組
書道選択者8名(男子2名女子6名)
指導者 池田 光麿

1 単元設定の理由

「書道Ⅰ」で学習する仮名の書は「古筆」とよばれ、特に平安時代の伝統に立脚したものをいう。日本固有の文字仮名の流麗さや優雅さを鑑賞や臨書を通して味わい日本人の心に触れることは、国際化や人工知能の発展がめまぐるしい現代には是非必要なことと思われる。小・中学校の国語科書写で学習した仮名とは、用具・用材も異なり、線質や字形にも大きな違いがある。したがって本単元では、まず仮名の成立過程を示した上で、用具・用材や姿勢、執筆法を丁寧に指導できるように考えた。また、基本的な用筆・運筆を習得したうえで、変体仮名や連綿、紙面構成、料紙など、仮名の美を構成する要素を段階的に学習できるように試みた。最後には、生徒の意図に基づき主体的に表現を工夫できるよう創作活動を置き、生涯を通して書や芸術を愛好する心情を養うためにこの単元を設定した。

2 生徒の実態

書道経験のある生徒は少ない。習熟度クラスである。比較的小となし集中力の持続する生徒達である。

3 AL(アクティブラーニング)の視点からの授業改善のポイント

- (1) 協働的に問題解決を行うことができるようにグループ活動を取り入れた。
- (2) はっきりとした答えのない仮説を生徒同士が肯定的に捉え、仮名の散らし書きを通して日本人の美意識への探究に繋がるような思考の流れが作れるように考えた。
- (3) 適宜クラッシーなどを使用し資料提供したり資料保存したりすることに試みた。

4 単元の目標

- (1) 書への関心・意欲・態度
仮名の書の鑑賞や臨書に、主体的に取り組む態度を養う。
- (2) 書表現の構想と工夫
古筆の美とその技法を理解し、感性を高め、表現を構想する力を養う。

(3) 創造的な書表現の技能
臨書を通して創作につながるような表現力を養う。

(4) 鑑賞の能力
古筆の書風を味わい、鑑賞の目を養う。

5 単元の評価規準

- (1) 書への関心・意欲態度
- ア 古筆の鑑賞に意欲的に取り組み、美の要素を見つけようとしている。
 - イ 古筆の臨書に積極的に取り組み、それぞれの古筆の表現技法を身につけようとしている。
- (2) 書表現の構想と工夫
- ア 古筆の繊細優美な美しさを感じ、感性を高めている。
 - イ 仮名の美を生み出している用筆のリズム、流動美、紙面構成など、技法上の工夫を見出している。
- (3) 創造的な書表現の技能
- ア 仮名の書を表現するための基本的な用筆や線の特徴を理解し、基本的な技法を身につけ、自ら創造的な表現に生かそうとしている。
- (4) 鑑賞の能力
- ア それぞれの古筆の特徴を的確に捉え、積極的に伝えている。
 - イ 友達の評価を参考にして、自らの鑑賞力を深めている。

6 単元の指導計画（全16時）

時	学習活動	評価規準
2	仮名の特徴と成立について理解する。 用具用材の取り扱いについて理解する。	関心意欲ア 鑑賞ア
4	仮名の筆遣いと「いろは」単体について理解し、基本的な技法を身につける。	関心意欲アイ
1	仮名の連綿について理解し、その基本的技法を身につける。	関心意欲アイ 構想と工夫アイ
3	高野切第3種の臨書を行う。	関心意欲アイ 構想と工夫アイ
2	散らし書きについて理解を深め、その技法を身につける <u>(1/2本時)</u>	関心意欲アイ 構想と工夫アイ 創造的なア 鑑賞アイ
4	短歌の創作を行う。	関心意欲アイ 構想と工夫アイ 創造的なア 鑑賞アイ

7 本時の目標

- (1) 仮名の散らし書き方の発生について創造し、日本人の美意識の探究を行う。
- (2) 日本人の美意識の探究を基に、散らし書きの基本的技法を身につける。
- (3) 宋時代までの中国の書と日本固有の文字である仮名を比べ、日本人の美意識について理解を深める。

8 本時の展開

	学習活動	留意点	評価規準
導入	1 前時まで復習と本時の学習の流れの確認。	形態 (グループ)	関心意欲ア
展開	2 仮名の散らし書きを鑑賞してその特徴を理解する。 3 散らし書きはどのようにして創造されたのか考える。 4 日本美のあり方をもとに仮名の散らし書きに試みる。 (1) 高野切3種を切り貼りして構成を作る。 (2) 構成をもとに書いてみる。	形態 (グループ) 日本文化の例として日本庭園の箱庭の作り、お互いに理解を深める (クラッシーの使用) 話し合いながら散らし書きの工夫をする (クラッシーの使用)	関心意欲アイ 構想と工夫アイ 書表現の技能ア 鑑賞アイ
まとめ	5 (1) 日本人の美意識について探究する。 (2) 次時の計画を聞く。	形態 (グループ)	関心意欲ア 鑑賞アイ

9 本時の評価

- (1) 仮名の散らし書き方の発生について創造し日本人の美意識の探求できたか。
- (2) 日本人の美意識の探求をもとに散らし書きの基本的な技法を身につけられたか。
- (3) 宋時代までの中国の書と日本固有の文字である仮名を比べ、日本人の美意識について理解を深められたか。

資料1

仮名の散らし書き 書き出しの位置や行の長さ、行間に変化をつける書き方

1年 組 氏名 _____

- 1 仮名の散らし書きはどのようにできたのだろう。

- 2 日本庭園箱庭の作成で得たものは。

- 3 実際に仮名の散らし書きの構想の感想は。

- 4 教科書の中国の書（P 14～P 63）と比べて日本人の美意識とはどんな物だと思いますか。

- 5 意見交換のルーブリック （該当する欄の番号を選んで下さい。）

	相手に思いを具体的に伝えられた。	相手の意見を具体的に理解することができた。	自分の考え方や相手の考え方を融合して深い学びとなった。
良くできた	①	④	⑦
だいたいできた	②	⑤	⑧
もう少しだった	③	⑥	⑨